

26P-am100

アンチエイジングの観点から見た、混合ハーブエキスと漢方原料からなるカプセル型食品の有用性

○田村 隆朗¹, 八木 雅之², 堀江 正信², 米井 嘉一³, 高橋 穂澄³(¹AVINホロメディコプロジェクト, ²アークレイからだサポート研, ³同志社大生命医科学部アンチエイジングリサーチセンター)

【目的】*Anthemis nobilis* (ローマカミツレ)、*Crataegus oxyacantha* (セイヨウサンザシ)、*Houttuynia cordata* (ドクダミ) および *Vitis vinifera* (ブドウ) からなる混合ハーブエキスには、糖化によるタンパク質老化物質の 1 つである Advanced Glycation Endproducts (AGEs) の生成阻害作用が知られている。一方、温性薬として漢方方剤に使用される生姜 (*Zingiber officinale*) と山椒 (*Zanthoxylum piperitum*) には消化管運動促進作用、血行促進作用が知られている。これら 3 種類をカプセルに充填した食品 (カプセル型食品) を、健康成人及び糖尿病・高血糖成人が摂取した時の皮膚中 AGEs 蓄積抑制および QOL 変化の有用性を評価した。

【方法】被験者は、健康成人 8 名、糖尿病・高血糖成人 4 名とし、カプセル型食品を 1 日 4 カプセル、12 週間連続摂取した。皮膚 AGEs 蓄積は AGE reader (DiagnOptics) により測定した。QOL は抗加齢 QOL 共通問診票にてモニタリングした。なお本試験はヘルシンキ宣言の精神に則り、倫理委員会の承認を経て行なわれ、被験者は試験の内容を十分に理解し、同意書を提出して自主的に参加した。

【結果および考察】カプセル型食品の摂取により、皮膚 AGEs 蓄積の抑制が健康成人で有意 ($P=0.012$)、糖尿病・高血糖成人で 4 名中 3 名に認められた。抗加齢 QOL 共通問診票による有症状者の改善は、「便秘」(83.3%)、「冷え症」(71.4%) であった ($P=0.043$)。以上の結果、混合ハーブエキスと生姜、山椒を組み合わせたカプセル型食品の摂取は、皮膚中の AGEs 蓄積を抑制すると共に自覚症状を改善したことから、アンチエイジングの観点から有用である可能性が示唆された。